

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	摂津市立めばえ園		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・学校生活全般(生活、対人関係、学習)への支援を行っている。	・児童自身が行うことが出来るよう個々にあったアイテムを作成している。また一緒に作成する事もある。 ・所属校担当職員と連携を図っている。保護者からの相談内容によっては、学校へ訪問し支援コーディネーターの教員も含めて話し合いを行っている。	・担当職員の専門性の向上に向け勉強会、担当者会議を継続的に行う。
2	・保護者・児童の困り感に寄り添っている。	・家庭での困り感や内容によっては、市の関係機関とや相談支援事業所等と連携し対応を行っている。 ・職員間で連携し、保護者ニーズに合った支援を考えている。(多職種での協働)	・職員間の連携はもとより、各関係機関との連携をより深める。連携の在り方を様々な会議で意見していく。
3	・児童発達支援からの児童に対し「就学への移行支援」を行っている。	・就学時、保護者の希望により各学校に出向いて引き継ぎを行い、よりスムーズな移行に向けて取り組んでいる。(心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士) ・適宜、児童の所属校と連携を図り、必要に応じて訓練の見学、引継ぎや担当者会議を実施している。	・切れ目のない支援に向けて、就学後も継続した連携体制の構築に向けて取り組む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・快適な空間の確保が難しい場合がある。	・空間が限られているため、同じ空間で3組の訓練を行うことがある。 ・2組以上での部屋の利用は刺激が多いため、いつも以上に配慮しながら訓練を実施しているが、児童の特性等により難しい場合がある。	・子どもの課題に合わせて戸外での実施等、室内だけでなく空間の確保について柔軟に対応する必要がある。 ・2組以上が同じ部屋で実施する場合、「個人情報」の取り扱いに細心の注意が必要。
2	・天候不良や利用人数が多い場合、広い部屋が限られているため、部屋の確保が難しい場合がある。	・利用できる空間が限られている。 ・キャンセルによる利用日の変更が多い場合は、部屋の利用が重なる場合がある。	・職員間で連絡を取り合い、利用人数など把握の調整が必要である。 ・キャンセルによる利用日の変更については、朝礼、終礼等で確認していく。
3	・就学前はグループ訓練を積極的に行えたが、時間的制約により就学後は難しくなり、保護者同士の交流が少なくなる。	・個性が高くなるため保護者同士のつながりが減ってしまう。	・学校が長期休み中は利用希望が増えるため、グループ訓練などを実施し、利用希望に対応できるようにする。 ・保護者悩みを丁寧に聞き取り、子育てプログラム「トリプルP」等の実施について案内する。 ・地域の子育て活動などの情報を発信する。